

強力有機物分解・発酵・腐植促進材



菌 太 郎

高設栽培（いちご）への「菌太郎」の使い方

有用微生物が
作物残渣の分解を促進



菌太郎を水に溶かし「菌太郎液」を作る。

◆希釈の目安

詳細な希釈倍率は定めておりません。
対象となる残渣・有機物に十分にかかるようご施用ください。

① << 動力噴霧器の場合 >>

☞ 10aあたり **(500～1000倍希釈相当)**

菌太郎：100g ～ 200g

水：50ℓ ～ 100ℓ

★糖蜜：500mlを混用してください。（しっかりと水に溶かす）

※しっかりと残渣、培地全体にかけるようにしてください。

※状況により濃度は調整してください。



② << 原水の流量に比例して液肥を混入する液肥混入機の場合 >>

☞ 液肥吸入させるための「濃度の高い菌太郎液」を作る。

バケツなどの容器に菌太郎500gと水：5リットルを投入。（10倍液）

★糖蜜：1ℓ～2ℓも混用してください。（しっかりと攪拌し水に溶かす）

この容器から吸入のチューブを用いて混入させ、灌水させてください。

水量は500ℓで1000倍希釈相当

※状況により濃度は調整してください。



<< 原水タンクで希釈させる場合 >>

☞ 原水タンクの容量に応じて菌太郎を希釈、タンクの中で菌太郎液を作る。

★糖蜜も原水量に対し、250～500倍希釈相当混用してください。

菌太郎も糖蜜もタンクの中でしっかりと攪拌してください。

じっくりと残渣分解させていく場合は1,000倍希釈相当がオススメ、

素早い分解で次作の着実な準備なら250～500倍希釈相当がオススメです。

糖類（糖蜜など）混用で菌群を活性化させることがポイントです。

※あくまでも「目安」です。処理時期（温度）、培地の状態によっても菌の働きが変わりますので、

施用量は状況をみながら調整してください。

【 施用の注意 】

- 石灰チッソ、殺菌剤との混用は控え下さい。
殺菌剤を散布する場合は、前後3日空けてご施用ください。
完全にガス抜き後に散布して下さい。
- 日中の地温が10℃以上でご使用いただくと効果的です。
- 開封後、残りは湿気が入らないよう、しっかりと閉じてください。
開封後はできるだけ早めにご使用ください。
- ほ場「全面散布」及び「作条散布」を原則とします。
- 灌水チューブを使用する場合は、内部に本剤が詰まらないことをご確認の上、ご使用ください。
また、念のためご使用後は灌水チューブに水を流してチューブ内を洗浄してください。
- 施用後から定植までの期間は2～3週間は空けてください。
- 『竹満作』と併用するとより効果が高まります。

【 成 分 】

土壌有用微生物群

通性嫌気性菌（乳酸菌・酵母菌）

好気性菌（有孢子乳酸菌・麹菌・枯草菌）

賦形剤（グルコース・でんぷん）

【 内容量 】

2 kg
500g

